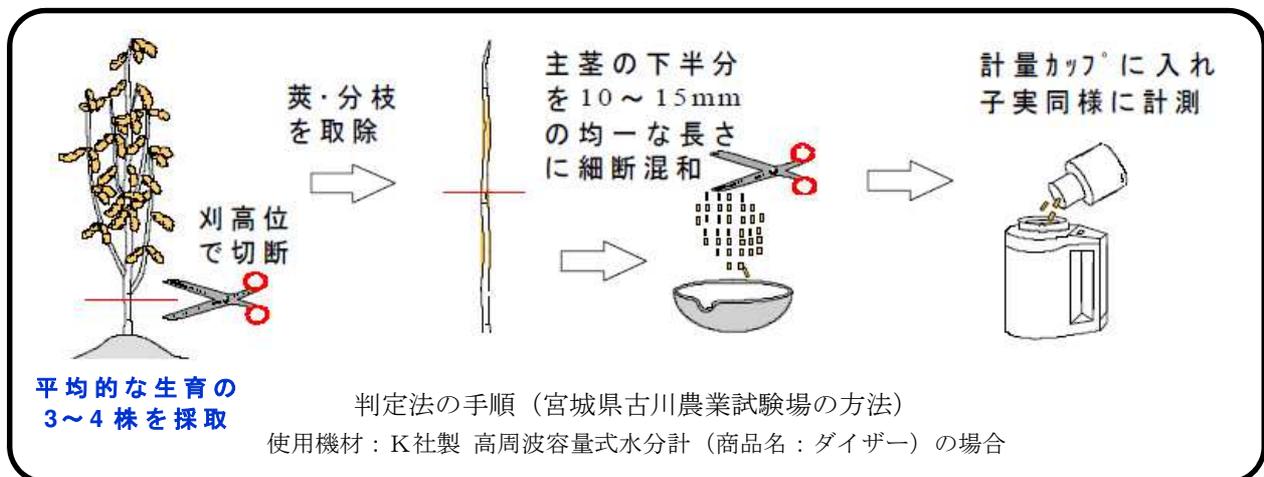


参考資料 25 茎水分簡易判定法（宮城県古川農業試験場の方法）（大豆）

子実水分の測定用として広く利用されている高周波容量式水分計を利用した簡易な茎水分の判定方法である。この方法は成熟期前後から利用でき、子実水分と茎水分が同一器材で判定できる。



●ダイザーを利用する場合の測定方法●

- ①子実の水分測定方法に準じて軽量カップを用いて行う。測定はサンプルを戻して3回程度測定を繰返し、その平均値とする。
- ②測定値11で茎水分が50%前後となり、測定値9では、茎水分が完全に50%を下回ったと判定できる（下図参照）。

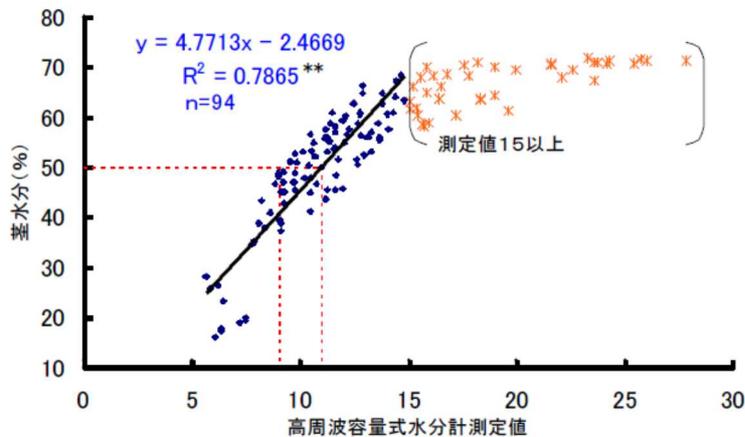


図1 ダイザーを利用した場合の茎水分判定検量線

※サンプル品種：ミヤギシロメ、タンレイ、あやこがね
茎径：6.41mm～15.7mm 試料採取期間：10/11～11/22
※ $Y = 4.771X - 2.467$ （茎水分予測幅±8.56）
Y：茎水分（%） X：測定値

●PM830-2を利用する場合の水分判定方法●

- ①操作パネルの「1」を押しながら、電源「ON」を押す（質量・温度補正機能解除）。
- ②「測定」スイッチを押し、デジタル表示「0」（単位：pF；静電容量値）を確認する。
- ③付属の計量カップにすり切りのサンプルを測定部に投入し、静電容量値（pF）を測定する。
- ④同一サンプルを5回以上繰り返し、静電容量値の平均値を求める。
- ⑤4～5 pFで茎水分50%と判定できる（右図参照）。

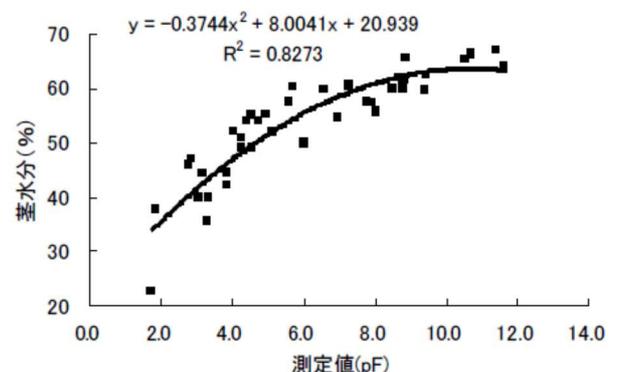


図2 PM830-2を利用した場合の茎水分判定検量線